

第2号議案 2022年度事業計画案および収支予算案

I. 2022年度事業計画案（令和4年3月1日～令和5年2月28日）

学会活動の活性化、会員へのサービス向上と健全な学会財政の維持に配慮して、本学会の設立目的の達成に必要な事業を進める。2020 および 2021 年度事業の実施に影響を与えた新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の状況を注視し、オンラインシステム等を活用しつつ、対面によるディスカッションの確保を図る。

そうしたなかで、従来からの事業に加え、学会の将来を担う若手会員への支援を拡充するとともに、学会創立 100 周年に向けた事業の準備に取り組む。

1. 定期刊行物および資料の刊行

日本土壌肥科学雑誌（第 93 巻第 2 号～第 6 号および第 94 巻第 1 号の計 6 冊、A4 判）、SOIL SCIENCE AND PLANT NUTRITION (Vol.68, No.1～No.6, Vol.69, No.1 の計 7 冊、A4 判) を刊行する。また、2022 年度東京大会に際して日本土壌肥料学会講演要旨集（第 68 集）を電子版として刊行する。

2. 講演会および研究会等の開催、支援

1) 「土と肥料」の講演会

2022 年 5 月 21 日（土）、総会終了後に、東京大学農学部 3 号館大会議室において「土と肥料」の講演会を開催する。テーマを『『みどりの食料システム戦略』を見据えた土壌肥料のアプローチ：有機質資源の利用の視点から』とし、講演者と演題は、浅野智孝氏（朝日アグリア株式会社 理事）「堆肥原料の肥料化」、古賀伸久氏（農研機構九州沖縄農業研究センター 主席研究員）「有機農業や減化学肥料栽培に貢献する有機質資材窒素肥効見える化の取り組み」である。なお、本講演会は日本学術会議の後援を得て実施する。

2) 2022 年度年次大会

2022 年 9 月 13 日（火）～15 日（木）、東京農業大学世田谷キャンパス（一般講演、シンポジウム、学会賞等授賞式・記念講演）において年次大会を開催する。学会賞等授賞式および受賞記念講演は 14 日（水）に行う。また、若手口頭発表優秀賞および若手ポスター発表優秀賞の表彰を行う。

シンポジウムのテーマについては、従来と同じく会員から公募し、これを基に部門長会議で検討して設定する。

学会賞等授賞式では、第 67 回日本土壌肥料学会賞 3 名、第 27 回同技術賞 1 名、第 40 回同奨励賞 5 名、第 11 回同技術奨励賞 1 名、第 11 回同貢献賞 1 名に各賞を授与する。また、論文賞 2 件および SSPN Award 1 件の受賞者については、各賞を授与するとともに、受賞記念ポスターを展示する。学会賞等受賞記念講演に引き続き 2022（令和 4）年度日本農学賞・読売農学賞受賞者による受賞講演を行う。

第 67 回日本土壌肥料学会賞受賞者と受賞業績

- ・江沢辰広：アーバスキュラー菌根共生における物質輸送の分子基盤と環境応答
- ・舟川晋也：比較土壌生態学による土壌資源の持続的利用に関する研究
- ・牧野知之：土壌中における有害元素の動態と作物吸収低減に関する研究

第 27 回日本土壌肥料学会技術賞受賞者と受賞業績

- ・鈴井伸郎：植物 RI イメージング技術の開拓と植物栄養学研究への展開

第 40 回日本土壌肥料学会奨励賞受賞者と受賞業績

- ・伊藤英臣：農耕地の窒素循環と農業害虫に関わる土壌微生物の研究
- ・内田義崇：農耕地土壌における窒素動態の解析と N₂O 発生削減技術の開発に向けた分野融合的研究
- ・木下林太郎：土壌の地理的空間変動解析による肥沃度改善への貢献
- ・丸山隼人：植物の土壌中難利用性リン獲得機構に関する研究
- ・山崎清志：圃場観察に基づいた根の栄養屈性の発見

第 11 回日本土壌肥料学会技術奨励賞受賞者と受賞業績

- ・櫻井道彦：有機栽培畑における実践的な土づくりと養分供給技術の開発

第 11 回日本土壌肥料学会貢献賞受賞者と受賞業績

- ・瀧 勝俊：中部支部における土壌教育活動の実施体制の整備と長年にわたる運営および実践

日本土壌肥料学雑誌論文賞受賞者と受賞論文題目

- ・高橋智紀、西田瑞彦、浪川茉莉：原位置において簡易に測定できるガス拡散係数測定装置
- ・人見良実、吉泉裕基、亀和田國彦：埋設型ライシメータ利用による黒ボク土畑での牛糞堆肥連用が窒素動態に及ぼす影響評価

SSPN Award 受賞者と受賞論文題目

- ・ Fan Wang、Reiko N. Itai、Tomoko Nozoye、Takanori Kobayashi、Naoko K. Nishizawa、Hiromi Nakanishi：The bHLH protein OsIRO3 is critical for plant survival and iron (Fe) homeostasis in rice (*Oryza sativa* L.) under Fe-deficient conditions

3) 支部大会等

- ・北海道支部：2022 年度秋季支部大会・支部総会(12/1「かでの 27」、札幌市の予定)および北海道支部野外巡検(時期・場所未定)を主催する。
- ・東北支部：2022 年度東北支部大会および支部総会を開催する(6 月～7 月、場所未定)。
- ・関東支部：関東支部大会、支部幹事会および支部総会を開催する(11/20「ヒロサワ・シティ会館」、水戸市)。
- ・中部支部：第 82 回中部支部総会、第 101 回支部例会を開催する(11/14～15「ウインクあいち、名古屋市」)。また、第 170 回支部評議員会(5 月オンライン)、第 171 回支部評議員会(11/14、「ウインクあいち」、名古屋市)を開催する。
- ・関西支部：関西支部講演会(12 月初旬、神戸市)、支部役員会(講演会の翌日)を

開催する。

- ・九州支部：2022 年度九州支部例会、2022 年度支部賞選考委員会、2022 年度支部常議員会並びに支部総会を開催する（8～9 月、場所未定）。

3. 研究の奨励および研究業績の表彰

定款および細則に基づき、第 68 回日本土壌肥料学会賞、第 28 回同技術賞、第 41 回同奨励賞、第 12 回同技術奨励賞、第 12 回同貢献賞、日本土壌肥料学雑誌論文賞、SSPN Award など顕著な業績を挙げた者を表彰する。

4. 内外の研究者、技術者、他学会等との連絡および協力

定期刊行物の国内外との交換、国内関連学会等と共催の研究討論会等を行い、学術交流・国際交流の強化を図る。

- ・ESAFSサポートオフィスを通じて関連情報を発信する。
- ・Global Conference on Sandy Soils（5/30～6/3、アメリカ・マディソン）へのIUSS Division 3 Chair 出張旅費を支援する。
- ・WCSS（7/31～8/5、英国・グラスゴー）への学会代表者、IUSS前会長およびDivision Chairの派遣旅費、若手発表者の参加登録費を支援する。
- ・ESAFS（8.22～26、マレーシア・クアラルンプール）への学会代表者等、IUSS 前会長およびシンポジウム担当者の派遣旅費、若手発表者の参加登録費を支援する。
- ・第34回環境工学連合講演会（5/31）を共催し、本学会の仁科一哉会員が「環境問題解決に向けた最先端の土壌肥料学分野と今後の展開」を講演する。
- ・日本地球惑星連合（JpGU）2022 年連合大会セッション（5/30～6/1 現地開催、6/3～6 オンライン開催）を共催する。
- ・第32回環境工学総合シンポジウム（7/7～8、高松市）を協賛する。
- ・第59回アイソトープ・放射線研究発表会（7/6～8、オンライン開催）を協賛する。

5. 本学会の委員会等活動

- ・企画委員会：総会終了後に開催する「土と肥料」の講演会を企画する。
- ・財政基盤整備委員会：引き続き支出の削減に努めるとともに、積極的に収入の拡大策を検討し、収支バランスの改善を図る。
- ・国際対応：IUSS、ESAFS を中心に代表者派遣、委員等の推薦、国際会議等に係る情報収集・発信および渉外対応により、国際土壌の10年関連活動を継続する。
- ・部門長会議：①年次大会におけるシンポジウム企画応募案の検討および一般講演プログラムの編成、優秀発表賞の選考を行う。②会誌進歩総説、欧文誌特集の企画を検討する。
- ・土壌教育委員会：①東京大会において高校生による研究発表会を実施する。②教員研修およびその他の普及事業を行う（時期および場所未定）。
- ・広報：①学会ホームページのさらなる改善を図る。②フェイスブック等による情報発信の活性化を図る。③土壌教育委員会とともにエコプロ 2022 にブースを出展

する（12月）。

6. その他、本学会の目的達成のための事業

- 外部の顕彰および研究助成の推薦依頼に対応する。
- 学会の将来を担う若手会員の育成に向けて、その支援の拡充を図る。COVID-19の影響に配慮して学生会員の2022年度会費を免除するとともに、若手正会員及び学生会員の海外での学会発表のための渡航費またはオンライン開催される国際学会参加登録費の一部支援については、予算を増額する。
- 学会創立 100 周年へ向けて、記念事業の企画検討を進め、その財政基盤の確保を図る。